

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800086		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岩国平田		
所在地	山口県岩国市平田5丁目27-55		
自己評価作成日	平成23年11月5日	評価結果市町受理日	平成24年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家は、全国140箇所以上のGHを展開させて頂いており、地域との関係作りをもっとうとして運営をさせて頂いております。愛の家グループホーム岩国平田は、中四国九州エリアと地域としては広いですが他の愛の家の情報共有が行える体制を作っております。当ホームは、日々利用者様お一人おひとりのADLに合わせたケアを行い、寄り添ってのコミュニケーションを行っております。そして、とても明るいスタッフが揃っておりますので、毎日いつでも笑い声と歌声の耐えないホームになっております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族への連絡や報告にはいりよしておられ、家族通信には、利用者の生き生きした表情の写真が載せられ、利用者の事業所での暮らしぶりが家族によく伝わるように工夫を凝らされています。年2回の家族会や法人が実施される家族アンケートで、家族の意見や要望を聞くなど、家族との連携を大切にされ、それらの意見を運営に反映しておられます。日常の業務では、利用者の担当職員が居室での寝具や衣類等の管理や身の回りのサポートなど、利用者の普段の状況を把握され、健康面や安全面を生活を支えておられます。外部研修は勤務経験や段階に応じて受講できる機会を提供され、毎月の全体会議での報告会や法人からの研修資料を基にした内部研修を毎月実施されるなど、職員が働きながら学べるように取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	MSC開設時から作られているもので、スタッフには理念の意味を「道しるべ・反省の為に」ある物と説明しており、毎朝朝礼時、出勤スタッフ全員で唱和しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、サービスの振り返りや原点に返るものとして捉え、毎朝の朝礼時には唱和して職員間で共有し、日々のケアに活かすよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に入らせていただき、運営推進会議などの参加の声掛けを行っている。地域への日常的な散歩を行っており、近所のスーパーなどへの買い物も行っている。	自治会に加入し、地域の清掃行事に参加している。地域の祭りや地区内の老人施設の祭りに利用者と一緒に参加したり、スーパーでの買い物や地域内の散歩など、地域と関わりながら暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会に入会させて頂き、地域の夏祭りなどの参加も進んで行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	開設し2回目の評価になります。前回評価して頂いた事も全スタッフに周知し、改善して参りました。今回も自己評価を全スタッフに回覧し評価を生かして改善に向けて取り組んでいます。	運営者、管理者、職員共に評価の意義を理解し、自己評価はホーム長が作成後、職員に提示し意見の交換と確認を行っている。評価を通してサービスの見直しに取り組むよう努めている。	・全職員での自己評価の実施と項目の理解
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社内での規定で、2ヶ月に1回必ず運営推進会議の開催を掲げていますので、行うようにしています。また、ボランティアの受け入れも積極的に行っています。	利用者の状況報告、行事報告、外部評価の取組等について話し合い、意見交換してサービスの質の向上に努めている。	・定期的な開催 ・地域代表者の参加の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岩国市が主催する研修会参加など、職員に伝達し、参加出来るような体制を作っている。	担当課とは、各種制度の更新手続きや事故報告書等の提出の際に、利用者や事業所の状況等について相談したり情報交換を行っており、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束だけでなく、言葉による拘束もあると全体会議などの時間を使い話し合いを行っています。	マニュアルがあり、代表者及びすべての職員は研修やミーティングを通して身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、言葉遣いにも注意して、スピーチロックも行っていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉・身体・投薬等の虐待にあたる勉強会を行っています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないので行っておりませんが、そうなった場合は研修を受けるなどの体制を作っています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度不明点などの確認を行っており、ご家族様には十分な説明を得られております。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしている。また、本社主催のご家族様アンケートを毎年実施しており、ホームにフィードバックされ改善に向けている。	家族の来訪時や電話等で意見や要望を聞くほか、意見箱を設置するなど気軽に意見が出せるように工夫している。年2回の家族会や法人が実施する家族アンケートでも要望を聞いており、その内容を運営に反映させている。苦情・相談の受付体制や処理手続きを定め、本人や家族に周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社からの実施で、職員アンケートを実施しています。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案などの反映も行っております。	日々の業務や全体会議、ユニット会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、それらを運営に反映させている。法人として職員アンケートを実施するほか、法人のマネージャーも月2～3回来所して、職員とのコミュニケーションを図るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長の他に中四国を管轄し管理を行っているリージョンマネージャー・西日本を管轄し管理を行っているディビジョンマネージャーがおり、定期的なホーム訪問を行っている、職場の環境等の整備を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、参加終了後には、全体会議等で他のスタッフへの情報の共有に努めている。また、内部研修では、本社での研修資料を基に定期的に行うようにしている。	法人から提示された研修資料を元に、内部研修を毎月行っており、外部研修は勤務経験や段階に応じて受講の機会を提供している。外部研修参加者は全体会議で報告し、職員全員で情報を共有している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市のグループホーム協議会に入会させて頂き、情報共有している。また、愛の家の各ホームとの連絡体制が出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人様にお話をさせていただき ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安なく利用者様を入所出きるよう説明を行い、いつでも相談できるような関係作りを構築している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしている。また、サービスの変更があった時などは、都度相談し、変更している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の不安な気持ちなど察し、ゆっくりと傾聴し共感できるような関係作りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日々の状況など、毎月の新聞発行と共に状況のお手紙を送付している。ご家族様来所時には、コミュニケーションを通して細かな状況を伝えるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院などに出かける機会や、馴染みの関係の方の来訪などがある。今後も関係が継続していけるような関係作りを支援していく。	寺社への参詣、馴染みの理美容院の利用や商店での買い物、友人や知人の訪問など、利用者の馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様が出きる合同のレクリエーション・各ユニット毎のレクリエーション・個別に傾聴したり歌を歌ったりする個別レクリエーションと毎日変化を起こしながら係っています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に、お引越しをされた際、ご本人様・ご家族様には「何かお困りの時には、いつでもご連絡ください」と声掛けを行っています。そして、お引越し後も、お引越し先に出向き、お話の出きるような関係を構築しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話の中から、意向をお聞きしています。そして、ご家族様との会話の中から意向の把握に努めており、コミュニケーションの難しい入居者様の把握についてはご家族様に聞き把握に努めています。	職員は、利用者とのコミュニケーションに努めており、日ごろのかかわりの中でのつぶやきなどを大事にしながら、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族に聞いたり、生活歴等を参考にするなど、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方など、多方面からの情報収集に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。そして、利用者様の少しの変化も見逃すことのないよう、スタッフ同士の情報の共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、社内で決められた様式があるので、その様式に沿って作成しています。また月に回のユニット毎のカンファレンスや半年後とのスタッフによるモニタリングやアセスメントを作成し計画作成を行っています。	毎月1回のユニット会議でカンファレンスを開催し、利用者の要望や状態、かかりつけ医の意見、面会時や電話連絡時の家族の意見等を参考にして話し合い、介護計画を作成している。モニタリングと計画の見直しは3カ月毎、アセスメントは6カ月毎に行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・日報に加え、看護ノート・介護申し送りノートを使用し、職員間での情報共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご希望に添えるよう来所時などにコミュニケーションを図り、意見を聞くようにしている。ご本人様との会話の中で、希望に添えるものはないかと日々支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への買い物に一緒にお連れしている。今後、幼稚園との交流会やボランティアの受け入れの予定もあり、楽しく生活できるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院であるいしい記念病院・山元歯科に加え、2週間に1度のいしいケアクリニックDrによる往診がある。往診医とは、24時間連絡可能で緊急時も駆けつけて下さる関係が出来ている。	受診は、本人や家族の希望を大切にし、希望のかかりつけ医は基本的に家族同行となっており、協力医療機関の定期的な往診があるほか、情報提供も適切に行い、緊急時についても対応するなど、利用者が適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の24時間連絡体制と社内雇用の看護師との連携体制で利用者様の定期的な体調管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを作成し、病院への情報共有し退院時は、看護サマリーを作成していただき、情報の共有が行えている。また、入居者が入院中は、スタッフが日替わりでお見舞いにも行かせて頂き、病院での状況聞き、当ホームスタッフに伝えおり、情報の共有は行えている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験は、ありませんが、ご家族のご希望に、なるべく添えるように行っています。グループホームが最後の家と思って頂けるように体制の強化を行い、主治医との密な連絡体制を構築しています。	「看取りに関する指針」を作成し、利用開始時に説明している。実際に重度化した場合は、必要に応じ、早い段階から家族や主治医とも連携し、重症化や終末期に対応できるよう努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故などのマニュアルが社内であり、マニュアルに沿って事故防止に努めています。また、月1回の全体(スタッフ)会議の際に勉強会の実施を始めています。今後は、救急法などの勉強会に取り組んでいきます。	ヒヤリハット・事故報告書を作成し、ユニット毎に職員間で話し合い、改善策を検討して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。全職員での応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・全職員の応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め、年2回開催しています。しかし、地域の方の参加での消防訓練が行えていないので、今後は、運営推進会議等での議題にあげさせて頂き、参加を促していきます。	マニュアルを作成し、消防署の協力のもと、通報訓練や消火訓練、避難訓練を利用者も参加しておこなっている。市の防災メールシステムに加入し、緊急時の情報の把握に努めている。地域の協力を得るまでには至っていない。	・地域連携に向けた取り組みの検討
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、声掛けを行っておりませんが、ご本人様やご家族の方の希望により、入居者様のお名前を呼ばせて頂いている方もいらっしゃいます。排泄時には、トイレの外で待ったりとプライバシーに配慮し支援しています。	プライバシーについては、全体会議で話し合っており、日々の接遇に配慮し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせ、ご自身で決めることが出来るように支援しています。耳が遠くコミュニケーションが難しい場合には、筆談でのコミュニケーションも取り入れています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の1日の過ごし方を優先に考え支援しています。職員の1日の流れとしては、一応決まっていますが、その日その日を大切に楽しく笑顔で過ごせるよう支援しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後など、入居者様が着たいと思う服装と一緒に選び更衣をして頂いています。また、お出かけに行く際には、お化粧などの支援も行っています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、社内で決められた物を使用していますが、季節毎に季節に因んだ食事の提供を行っています。また、季節によっては、外でのお食事もしていただけるような支援を行っています。	法人の献立により、三食共事業所で調理しており、食材の下ごしらえや配膳、下膳など利用者のできることを職員と一緒にして、職員と同じ食事をとりながら食事の時間を楽しんでいる。おやつ作り、誕生日のケーキやいなり寿司を作ったり、外食をするなど食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食べれる量を、スタッフ全員が把握し、情報の共有が出来ており、入居者様が全部食べれるような支援を行っています。また、水分摂取量にかんしては、都度量を記入し、把握に努めています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、ご自身で出来る事は行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様には、紙オムツの使用よりも紙パンツの使用がいいと思っております。日中は、時間ごとにトイレにお連れし、トイレ内での排泄をして頂けるような支援を行っております。	利用者一人ひとりの排泄パターンや生活のリズムを把握し、時間を見図りながら声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄チェック表から個々の排便状況を把握し、各出社時申し送り時などに情報の共有を行っている。便秘予防のキナコ牛乳や腹部マッサージなどを行い、便秘予防に対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。入浴の声掛けに、お断りをされる入居者様には、再度ご家族からのアドバイスなども情報として頂きながらご本人様が気持ちよく入浴できる方法を見つけ支援しています。	週3回10時頃から15時:30分頃までの間、希望に応じ対応しており、一緒に歌を歌ったり、話を聞くなどゆっくりと入浴が楽しめるよう支援している。利用者の状態によりシャワー浴などの対応も行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。寝ることを優先せず、ゆっくりと過ごしていただいております。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬ファイルを作成し、全スタッフが把握できるようにしている。薬の副作用などの情報共有が行えており、内服時には、個々の内服を間違える事のないように、2度3度の確認を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意とされるものの情報をご家族にお聞きし、ホームで行って頂けるよう支援している。毎日のお手伝いは、日々違う入居者様にして頂けるよう支援しています。	家事や草取り、木の剪定など、生活歴を活かした活躍できる場面づくりや、ぬり絵や季節行事(月見、クリスマス等)のちぎり絵、計算ドリル、歌、レクリエーション、買い物など、気分転換や楽しみ事の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に合った役割の提供やお買い物などのお手伝い等も行っている。天気の良い日には、近所への散歩を多く行っている。	事業所周辺の散歩、季節の花見、ドライブ(錦帯橋、蜂ヶ峰公園、ゆう海岸等)のほか、スーパーへの買い物や外食ツアーなど、できるだけ外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人様のご希望により、お財布に多少のお金をお持ちの方もいらっしゃいます。その都度ご家族様に確認させて頂きながら支援しています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホーム内新聞送付時、入居者様からご家族様へ向けてのお手紙を書いていただき、送付しています。ご本人様が、電話を掛けたい時にも速やかに対応しています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内で、気の合う方同士の座席にしていますが、雰囲気を変える為、定期的な席替えを行っているユニットもあります。	リビングは明るく、温度や湿度も適切で、清潔感があり、壁には利用者の作品や行楽時の写真、色紙やカレンダーが掲示しており、家庭的な雰囲気で居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールのソファにゆっくりと寛いでおられ、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者様同士の会話を楽しまれたりと思ひ思いに過ごしていただいております。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームでは、入居者様の使い慣れたものを持ち込み頂き、居心地良く暮らして頂けるような支援を行っています。	居室入り口には、利用者が書いた表札がかかり、家族の写真やベッド、ダンス、テレビ、炬燵、机、座椅子等、利用者の使い慣れた物を持ち込んで、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室にコールを設置しております。居室で過ごされるときには、いつでもコールを押せるような配慮をしています。そして、夜間は、居室内、廊下共に夜光灯があり、足元を照らすので危険性のないような支援を行っています。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 愛の家グループホーム岩国平田

作成日： 平成 24年 2月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故発生時、残スタッフの応急手当・初期対応の定期的なく連の実施	全スタッフの応急手当・初期対応の習得・訓練の実施	・全体会議で、定期的に応急手当・初期対応の訓練を実施する。 ・ホーム独自の緊急時対応マニュアル・緊急時に必要な資料を作成する。	3ヶ月
2	36	災害時の地域連携に向けた取り組みの検討	緊急時、地域住民の方からの協力体制の構築	・運営推進会議等での議題提供。 ・行事等に地域の方を招待し、状況を把握していただき、協力を得る。	6ヶ月
3	4	外部評価における自己評価を、全スタッフでの実施及び理解	外部評価における自己評価の実践	・全体会議・ユニット会議等での自己評価内容を伝達し、今後のサービス・ケアの向上に必要な項目等をスタッフ間で共有する。	3ヶ月
4	5	運営推進会議での地域代表者参加の検討	運営推進会議への地域代表者の参加	現在は地域住民の方・オーナー・自治会の方等が参加されている。今後は災害時の協力を含め、議題内容を検討していく。	0ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。